

主題：

イエスにあるあの実際にしたがってキリストを学ぶことによって、
キリストのからだの実際の中で生きる

メッセージ 4

秘訣を学ぶとは、イエスにあるあの実際にしたがってキリストを学ぶことであり、
それはキリストのからだの実際としての神・人の生活をするためである

聖書：エペソ4:20-21. ピリピ1:8, 19-21前半. 2:5, 12-16. 3:7-10, 13-14, 20-21. 4:12-13

I. キリストのからだの実際は、「イエスにあるあの実際」です——エペソ4:21：

- A. イエスにあるあの実際とは、四福音書に記録されているようなイエスの生活の実際の状態です。神に喜ばれる唯一の生活とは、キリストが地上で生きた生活を繰り返す生活です——マタイ3:15-17. 17:5. ルカ3:22. II コリント5:9. ヘブル13:21. I ヨハネ3:22-24。
- B. キリストの経験の中で彼を経験する生活は、神の喜ばれる生活です。そのような生活は神にとって楽しみです。彼がわたしたちの中で、わたしたちを通して生きるとき、彼は四福音書に記録されているような彼の生活を繰り返します——詩歌304番。
- C. 主イエスの地上での生き方は、今日キリストのからだの肢体たちがすべき生き方です。イエスにあるあの実際は、彼の多くの肢体たちにおいて複製されるべきであって、それは彼らがキリストのからだの実際の中で団体的に生きるためです——ヨハネ14:19。

II. 主の神・人の生活は彼の信者たちに対して原型を設立しました。この原型は信者たちにおいて神・人を複製するためです——ローマ8:29. I ペテロ2:21：

- A. 本来、そのような生活はイエス・キリスト、一個人の中にありました。今や、この生活は、贖われ、再生されて、神聖な命を所有する多くの人たちにおいて繰り返されつつあります——1:18, 21, 23. I ヨハネ5:11-12。
- B. イエスに従うとは、最初の神・人のコピーとなることです（I ペテロ2:21）。わたしたちは神・人として、神聖で奥義的な人として生きるべきです。わたしたちの生活のあらゆるものは神聖で奥義的であるべきです（I ヨハネ2:6. 3:1. 4:6前半, 15, 17後半. ピリピ1:20後半-21前半）。
- C. キリストのからだの実際は、成就された神・人による団体の生活であり、彼らは真正な人であり、彼らの命によって生きず、手順を経た神の命によって生き、彼の属性が美德を通して表現されています。

III. パウロは、いかにキリストをすべてとするかの秘訣を、すなわちキリストをあらゆることで、あらゆる場所で、キリストを経験し、享受する秘訣を学んだ手本でした。これが、イエスにあるあの実際にしたがってキリストを学ぶことです——4:12. エペソ4:20-21. I テモテ1:16。

- A. 人々を牧養し、はぐくみ、養う最高の方法は、彼らに適切な手本を与えることです。

パウロは彼自身のキリストの生き方をもって自分の霊的な子供たちを養いました——16節。 I テサロニケ2:1-12。 II コリント1:23—2:14。 11:28-29。 I コリント9:22。 使徒20:28 :

1. 使徒たちは福音を宣べ伝えただけでなく、それを生きました。彼らの福音の務めは言だけによったのではなく、神の力を示した生活、聖霊の中の、また信仰の確信の中の生活にもよったのです。「わたしたちがあなたがたの間で、あなたがたのためにどのような者であったかは、あなたがたがよく知っているとおりです」—— I テサロニケ1:5。

2. 召会において最も重要なのは、パーソンです。パーソンが道であり、パーソンが主の働きです。あなたが何であるかは、あなたが何を行なうかです——ヨハネ5:19。 6:57。 ピリピ1:19-26。 使徒20:18-35。 マタイ7:17-18。 12:33-37。

B. パウロは神を注入されて、新契約の務めにおいて神を輝き出しましたが、新契約とは、その霊の務め、義の務め、和解の務めです—— II コリント3:18。 4:1。 3:6, 8-9。 5:18-20。

IV. パウロの長期の入獄と航海の期間、彼は十分に威厳のある生活をし、最高水準の人の美德をもって最も卓越した神聖な属性を表現しました——使徒27:22, 24-25。 28:3-6, 8-9 :

A. パウロは彼の航海において、キリストを生き、大きく表現しました。彼は栄光を受けたイエスの霊によって神・人イエスの命を生きました——ピリピ1:19-21前半。 エペソ6:19-20。 使徒16:7。 ヨハネ7:37-39前半。

B. これは、イエスが彼の神性によって豊かにされた人性の中で、再び地上で生きることでした！

C. これは、すばらしい、卓越した、奥義的な神・人であって、彼は諸福音書において生き、彼の多くの肢体の一人を通して、続けて使徒行伝において生きました！

D. これは、肉体と成り、十字架につけられ、復活させられ、神によって挙げられたキリストの生ける証し人でした！

V. 神・人の命を生きたパウロをわたしたちの手本とするとき、わたしたちは喜びを維持する必要があります—— II コリント5:9。 ヘブル11:5-6。 ピリピ4:4 :

A. わたしたちはいつでもわたしたちの霊を活用して、主を賛美し、歓喜しなければなりません——ヘブル13:15。 詩119:164。 ローマ14:17-18。 参照、 I コリント12:13。 詩116:12-13。

B. 「わたしは喜びを維持しているので、心配しないでください。どうかあなたも体に気を付け、心が喜びに満たされていますように」（1972年4月22日に、獄中にあるウオッチマン・ニーによって義理の姉に宛てて書かれた手紙）——参照、レビ1:9。 6:10。

VI. 神・人の命を生きたパウロをわたしたちの手本とするとき、わたしたちはキリストの内側の諸部分において彼を経験する必要があります——ピリピ1:8 :

A. キリストの内なる存在、彼の内側の感情は絶対的に彼の信者たち、すなわち、召会である彼のからだの肢体たちに集中しています——エペソ5:25, 30。

B. わたしたちはすべての信者を伴う召会に対して、キリストの内側の諸部分、内側の

愛情において彼と一である必要があります——Ⅱコリント12:15. ピリピ2:19-21。

VII. 神・人の命を生きたパウロをわたしたちの手本とするとき、わたしたちはキリストをわたしたちの生活として取り、イエス・キリストの霊の満ちあふれる供給によって、彼の表現となる必要があります——1:19-21, 24-25 :

- A. キリストはパウロの中で生きて、彼の命となりましたが、パウロはキリストを生きて、キリストが彼の生活となりました——ガラテヤ2:20. 6:17。
- B. パウロは、複合の霊であるイエス・キリストの霊の満ちあふれる供給を享受しました。この享受は、からだのためであり、また神の祭司職の奉仕のためです——詩第133篇。

VIII. 神・人の命を生きたパウロをわたしたちの手本とするとき、わたしたちはキリストの思いをわたしたちの思いとする必要があります——ピリピ2:5 :

- A. わたしたちの思いを霊に付ける方法は、わたしたちの思いを神の御言に付けることです——Ⅰコリント2:16. エペソ4:23. ローマ8:6. 詩119:105, 130。
- B. 聖書の光をわたしたちの思いの中に入り込ませれば入り込ませるほど、奴隷・救い主であるキリストの思考はますますわたしたちの思考となり、わたしたちはキリストのからだのためにキリストの思いを持つようになります——ローマ12:2-3. マルコ10:45。

IX. 神・人の命を生きたパウロをわたしたちの手本とするとき、わたしたちはキリストを内で活動する神として経験して、命の言である彼を提供します——ピリピ2:12-16 :

- A. 神はわたしたちの内で活動して、彼の大きい喜びのために内側で願わせ、外側で働かせます。
- B. 命の言であるキリストを提供するとは、彼を生かし出すことによって彼を適用し、提示し、ささげることです——使徒5:20. マタイ5:16。

X. 神・人の命を生きたパウロをわたしたちの手本とするとき、わたしたちはキリストを獲得し、彼の中に見いだされ、彼を主観的に知ることを熱望する必要があります——ピリピ3:7-10 :

- A. わたしたちはパウロと一になって、すべての事をちりあくと勘定すべきであり、それはわたしたちが受けたキリストを獲得し、得るためです。
- B. パウロは彼の全存在がキリストの中に浸され、浸透させられることを熱望しましたが、それは彼をよく見ているすべての人が完全に彼をキリストの中に見いだすためでした。

XI. 神・人の命を生きたパウロをわたしたちの手本とするとき、わたしたちはキリストをわたしたちが生かし出した義として取る必要があります——9節 :

- A. パウロが欲したのは、自分自身の義の中で生きることではなく、神の義の中で生きることであり、またそのような超越した状態の中に見いだされて、律法を守ることによってではなく、キリストを生きることによって神を表現することでした。
- B. この時代に彼らの義としてのキリストを生きる勝利者たちは、彼の婚宴の時に彼の花嫁となって、「輝く清い細糸の亜麻布の衣を着」ますが、「その細糸の亜麻布の衣は、聖徒たちの義」です——啓19:8. 3:18。

XII. 神・人の命を生きたパウロをわたしたちの手本とするとき、わたしたちはキリスト

をわたしたちの目標として取る必要があります——ピリピ3:13-14:

- A. わたしたちは日ごとに後ろにあるものを忘れて、前にあるものに向かって体を伸ばし、わたしたちの前にあるキリストの広大な未開の領域をさらに獲得することを絶えず訓練しなければなりません。
- B. わたしたちは、わたしたちの目標（キリストの満ち満ちた享受と彼を獲得すること）に向かって追い求めなければなりません。

XIII. 神・人の命を生きたパウロをわたしたちの手本とするとき、わたしたちはキリストをわたしたちの美德として経験する必要があります——4:8:

- A. キリストは真実であり、誉れがあり、義であり、純粋で、愛らしく、好評です。彼はこれらの称賛に値する美德の実際です。
- B. わたしたちが彼を追い求めて、わたしたちの内容として経験するとき、彼はわたしたちの美德の実際となります——Ⅱコリント2:15. 3:3。

XIV. 神・人の命を生きたパウロをわたしたちの手本とするとき、わたしたちはキリストをわたしたちの秘訣として学ぶ必要があります——ピリピ4:11-12:

- A. わたしたちはいかにキリストを命とし、いかにキリストを生き、いかにキリストを大きく表現し、どんな環境でも、どんな事柄でも、いかにキリストを獲得するか、その秘訣を学ばなければなりません。
- B. わたしたちは何でも主に告げ、主に語りかけ、充足の秘訣としてキリストを享受する必要があります——6-7節。

XV. 神・人の命を生きたパウロをわたしたちの手本とするとき、わたしたちはキリストをわたしたちの力として取る必要があります——13節:

- A. 一方でわたしたちは、わたしたちを力づけてくださる方の中で、いっさいの事柄を行なうことができますが、もう一方で、彼を離れては何もすることができません——ヨハネ15:5。
- B. わたしたちの内側の発電機として、キリストはわたしたちを力づけて、彼を生きさせ、彼を大いに表現させ、目標である彼に向かって突き進ませます——Ⅰコリント1:24. エペソ1:19-23。

XVI. 神・人の命を生きたパウロをわたしたちの手本とするとき、わたしたちはキリストをわたしたちの期待として取る必要があります——ピリピ3:20-21:

- A. 邪悪な奴隷は心の中で、彼の主人は来るのが遅れると言います——マタイ24:45-51。
- B. キリストの出現を慕っている人たちは、義の冠として、また明けの明星としての彼をもって褒賞を与えられます——Ⅱテモテ4:8. 啓2:28。

XVII. 神・人の団体の生活（キリストのからだの実際である生活）によって、この時代は終わり、王国時代において、これらの神・人と共にキリストは戻って来て、地を取り、所有し、支配します——11:15. 20:6。